

# 「共産主義者の政権参加」について

2021年12月12日大谷美芳

「先進国ではファシズムや権威主義的勢力によって政党の合法性が奪われ暴力的殲滅の危険性が存在するとき、これに対してブルジョア自由主義政党や社民とともに政権を共有し、これらのファシストを国家権力をも行使して解体しなければならない。」前回の民主党政権に続き、まだ「非常時」ではない情勢における政府問題ではないでしょうか。



## (1)現状に合わせて考える 立憲民主党政権に対してどうするか

「6項目・20課題の共通政策」(2015年反安保法など人民闘争の成果)で野党が共闘した。しかし、日米同盟基軸の立憲民主党政権に、日米安保反対の共産党が閣外協力することに対して、対中国・祖国防衛主義で反撃されて敗北した。

何よりも第一に人民闘争を発展させる。その結果、今は逃げ腰になっているが、立憲民主党に(ブルジョア民主主義勢力は常に一定存在)、安保法廃棄からさらに辺野古中止・普天間撤去と地位協定改定、あるいは格差・貧困問題での非正規雇用廃止や自然環境破壊問題での原発廃止などを認めさせることはできる。その時また、政府問題になるでしょう。

「共産主義者」とは？ 共産党は第2インター=社会民主主義であり、社会主義革命派=コミンテルン共産党として、新左翼系の「新しい政治勢力」を結集する(党的統合ではなく多種多様な党派やグループの共闘)。それを主体として考えるべきなのでしょう。

革命ではなく、人民主導の改良。だから、できるだけ高いレベルで政策協定し、その実行で、連立政権を組むのも、閣外協力をするのも、ありうる。もし、その政策以上に、帝国主義と資本主義を護持する動きが出れば、連立や協力を解消すればいい(社民党が辺野古問題で民主党政権から離脱)。そう考えます。

「独自性を制限する」とも思えません。根本的解決は社会主義革命と主張すればいい。



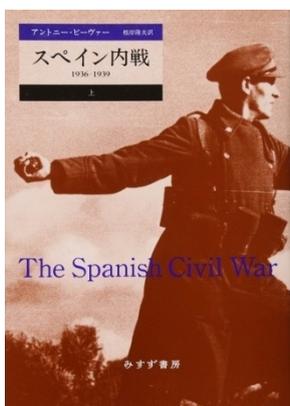
## (2) 列挙の「歴史的経緯」 誰が権力を握って何をしているかと整理する

① コミンテルン第3回大会の「労働者政府」や第7回大会の人民戦線。国家権力はブルジョア階級が握って資本主義を護持している(ブルジョア階級独裁)。それに対して、

人民が統制し改良する(人民民主主義)。その戦術としての政府問題。これが日本の現状。

② 中国やユーゴの人民民主主義独裁。ブルジョア革命(民族解放)におけるヘゲモニーの結果、国家権力はプロレタリア階級が握った。官僚的でない、人民が民主的に統制する、社会主義を準備する、そういう国家資本主義を実行する。ロシア革命も実はこれ(「NEP」は「プロレタリアートと農民の革命的民主主義的独裁」への戦略的退却)。

③ 社会主義革命のプロレタリア階級独裁。まだ例がない(②からの移行も全て失敗)。



## (3) 政府問題は革命ではない 柔軟かつ臨機応変にやる

いずれブルジョア階級独裁打倒の革命戦争、機動戦をやることになる。人民戦線では、スペインは内戦で革命が敗北した。フランスはナチス・ドイツに占領され、レジスタンスで、特殊に上記②の情勢になって、失敗した(共産党の議会主義)。

政権、政府、正確には内閣、それを取っても国家権力を握ったことにはならない(官僚機構はいずれ粉碎)。重要なのは、人民の大衆闘争の中で、自主的大衆的な組織を創出し持続させ発展させること(上記②を参考に人民民主主義に対する社会主義の指導が必要)、それがプロレタリア階級独裁の国家機構になる(「本城」)。陣地戦と対抗社会。

政府は大きい「出城」、取ったり失ったり、知事や市町村長と大して変わらない。全体主義でないなら権威主義でも、政府問題は戦術として出てくる。そう考えます。 (おわり)